

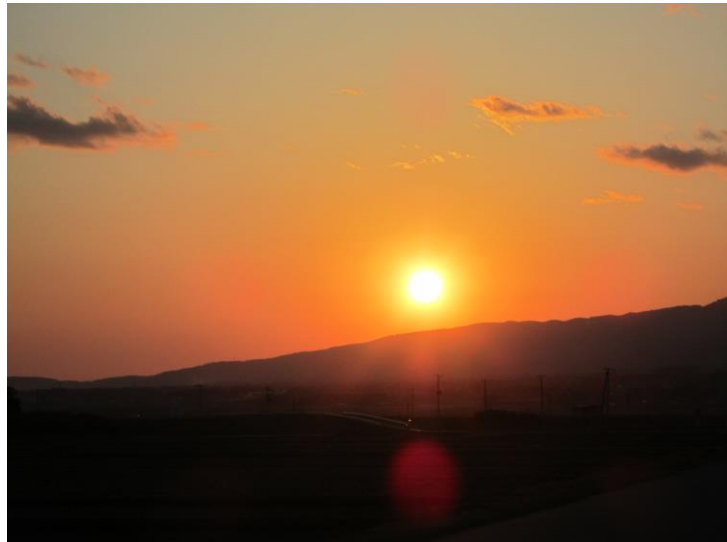
長畝ふるさと通信

【2011年12月号】

■ 2011年を振り返って…

① 3.11東日本大震災

未曾有の大災害となった東日本大震災、特に福島原発の放射能汚染事故は「命の産業」としての農業を見直す機会となりました。農薬や化学肥料を減らすだけでなく、「国民が毎日安心して食べ続ける事のできる食糧」を安定的に確保するための農業のあり方について考えていきたいと思います。その先にはTPPの対策も見えてくるのではないのでしょうか。「今日も元気だ、ごはんがうまい！」…日本国民の大きな問題です！



② 佐渡高校、春の選抜甲子園大会出場！



佐渡野球界の悲願達成。佐渡高校が春の選抜甲子園大会に21世紀枠で選ばれました。試合は古豪・智弁和歌山高校に敗れはしたものの、気持ちの良い試合でした。「佐渡の子たちだけでもやればできる！」感激です。大震災で落ち込んだ気持ちを元気づけてくれる出来事でした。

③ 生きもの調査で「共生」を実感 ジアス(世界農業遺産システム)にも認定

「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」の取り組みも佐渡全体に広がりを見せてきています。「生きものを育む農法」は佐渡の多くの生産者に理解され、年2回の「全島生きもの調査の日」には大勢の島民が田んぼに入って生きもの調査をし、生きものたちと交流しています。トキを共生のシンボルとしたこの取り組みはFAO(国連食糧農業機関)にも認められ、先進国では初の「世界農業遺産システム(GIAHS)」に認定されました。長畝生産組合ではもちろん、全耕地で取り組んでいます。



トキの足跡・・・8月の生きもの調査の日、田んぼに出かけると数羽のトキが飛び立っていきました。この時期、田んぼは稲が成長してトキは入ることができませんが、近くのビオトープにはドジョウなど多くの餌となる生きものたちがいるのです。トキたちはそこでお食事の真っ最中。人間の気配を察知するとすぐに逃げてしまいます。現場へ駆け寄ると見事な足跡が・・・

ひっくりかえる「佐渡カエル」・・・6月の生きもの調査で見つけた土カエルの佐渡特有種です。お腹から太ももにかけて黄金色に輝いているのが特徴です。余りにも珍しいので参加者が次から次へと押しかけて、とうとうご本人も恥ずかしさのあまりひっくり返ってしまいました。



ジアスの認定書です。ジアスとは世界的に重要な農業の資産システムのことだそうで、佐渡の1年を通して取り組む「生きものを育む農法」や、先人から引き継がれている山間深くまで続く棚田、里山、農村文化など佐渡農業が世界的に重要で後世に引き継がれるべき農業システムとして評価されたました。実は島民には急に降ってわいたようなお話しなのですが、せっかく認定されたのですから、佐渡の財産として生かしていきたいものです。

④ お米の注文は倍増、しかし・・・



大震災の影響から、お米屋さんからの予約注文が倍増しました。福島県をはじめ被災地の生産者を思えば手放して喜べませんが、ありがたいことです。一人でも大勢の方々から「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」を食べていただきたいと思います。しかし、今年の作柄は昨年に続き平年を大きく下回る結果でした。2年続きの酷暑に栽培がついて行けなくなっているのでしょうか？大きな問題です。せっかくの機会なのに十分に

応えることができない歯がゆさで一杯です。24年産はコシヒカリの栽培面積拡大も含めて対策を練っていきます。（会員の皆様のお米は確保してありますので、ご安心下さい。）

■ 今年も感謝を込めてプレゼント

会員の皆様、今年も1年ありがとうございました。感謝を込めて些少ではございますが組合の特産品をお送りいたします。年越しのごちそうにお使い下さい。



田んぼの風景はゆっくりと流れていきます。ふるさとの風景を守るのは私たちの役割です。会員の皆様、・・・こっそりと応援してください。

良いお年をお迎え下さい。来年も宜しく願いいたします。

長畝生産組合 組合員一同